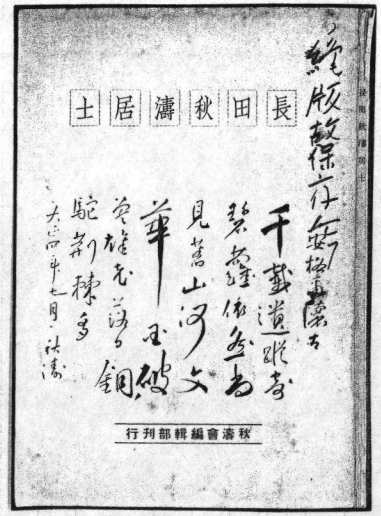
長田秋濤（ながたしゅうとう）　劇作家、繙譯家。明治四年十月五日駿河國生れ、大正四年十二月二十五日歿（一八七一―一九一五）。本名忠一（ただかず）。別號倚樓人、秋濤居士、秋香、翠掃堂。フランス學者長田銓太郎の長男。イギリス、ドイツ（ふ）學、次（つい）でフランスに轉じて法學を修める。歸國後繙譯、自作を以て演劇改良運動に加はる一方、明治二十九年帝國ホテルの支配人となり、翌年伊藤博文の歐米視察に隨行するなど政財界でも活動。後年我が國の南方發展にも意を注いだ。秋濤會繙輯部―安谷寛一編『長田秋濤居士』（昭和十二年七月二十日秋濤會）、秋濤傳を材とした中村光夫作『廣の偶像』（昭和四十二年六月二十五日筑摩書房）がある。



譯著書、エル、ジエツプレー原編『脚本の佛國（ふらんす）』（セキスピア詞曲リーア王『世界の名作（ふたりおとこ）』『人女婿（婿）』）全一冊（秋濤居士名、原譯、遯海居士戲編・耕雲子道人校訂、明治二十年三月鳳文館）、『菊水の幕』（明治二十八年二月二十七日金港堂書籍株式會社）、『繻子の那破崙翁』（内題『繻子の奈破崙翁』）は述譯、小林宮八（忠一郎）遺記、明治二十一年六月二十一日春陽堂）、コツペー作『王冠』（秋濤名、明治二十一年十月十八日春陽堂）、『サハラ大砂漠』（譯、明治二十二年八月九日春陽堂）、『寒牡丹』（秋濤居士名、紅葉山人共著、明治二十四年二月八日春陽堂）、ダレキサンドル、デユマ、フイス作『椿姫』（譯、明治二十六年五月四日早稻田大學出版部「文學叢書」）、『朝鮮遠征奇談』（『滿洲遠征支那奇談』）、『赤毛布』（明治二十七年二月一日文祿堂書店）、

『世界富家の表裏』（明治二十七年二月四日博文館）、ウイクトリアン、サルヅー作『脚戀の情』（秋濤居士名、明治二十八年八月四日金港堂書籍株式會社）、ヒジエーヌ、スクリーブ作『怨』（二大悲劇・第一卷）（譯、明治二十九年七月八日隆文館）、ウイクトリアン、サルヅー作『祖國』（二大悲劇・第二卷）（譯、明治二十九年八月一日隆文館）、『愛の比斯馬克』（口述譯、明治四十一年八月十五日春陽堂）、遺著『圖南錄』（大正六年四月五日實業之日本社。再刊・昭和十八年七月十日教育科學社）等。